



Title	風疹ワクチンの実用化をのぞむ
Author(s)	児島, 有岐
Citation	makoto. 1975, 12, p. 5-5
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/86215
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

風疹ワクチンの 実用化をのぞむ

大阪公衆衛生協会特別会員

児島有岐

人びとの祝福を受けて、若い男女が結婚というきずなに結ばれ、人生の第一歩を踏み出す。そして待たれるのは第一子の誕生である。

「子どもはなんんぐらいご希望ですか」

有名人の結婚インタビューなどで必らず聞かれる質問。

「そうですね、男の子ひとり」と女の子ひとりぐらい……」

はにかみながら答える若夫婦の答えはまるで判を押したよう。

妊娠とわかると、生まれる子は男だろうか、女だろうか、と

夢と期待でいっぱい。だが、十月十日の生み月が近づいてくる

と、もう男女の別などはどうでもよい、丈夫で五体満足ならば、

というふうに変ってくる。そしていよいよ出産。「お元気な赤ちゃんですよ。おめでとうござ

います。坊ちゃんですよ。(あるいはお嬢ちゃんですよ)」と

のことばに思わずほっとする若いお父さんとお母さん。

身近に年よりの居る人は、妊娠中にかぜをひいてはいけない。薬をのんではいけない。重い物を持ってはいけない。犬や猫などペットを飼ってはいけないとお姑さんや里の母から教えてもらえる。

これは、なが年、母から娘へ、姑から嫁へと言い伝えられた生活の知恵であろう。

不運にして心身障害児が生まれた家庭の重荷、一人前に育てるまでの苦勞、一生懸命生きぬいてきたその子たちが直面する社会は、健全な者たちが生きるに適應した社会、強者が作りあげた社会で、障害のある者が生きていくには、いろいろの厳しい壁がある。それをのりこえて

生きることのつらさをおとなたちは知っている。そして、これから母になるうとする若い妻たちに注意する。

もちろん、心身障害者が健全な者たちと同じように生活できる社会、都市構造が実現するよ

うに、私たちがともに努力すべきであるが、それには長い年月がかかる。

若い娘たちが、妻となり、母となる過程で、性と生命との係り合いに、無知であることが多い。とくに、現代は核家族化の

時代であり、結婚と同時に他府県へ赴任することもあり、また、働き続ける妻も多い。身近にいろいろアドバイスしてくれる経験者がいない。しかも、妊娠初期は、本人に自覚がなく、医師を訪れたときは、すでに三か月

というケースがほとんどである。この妊娠初期の三か月は、胎児の脳が形づくられる非常に重要なときで、この時期の母親の体のちょっとした故障が、胎児に悪い影響を与え、心身に障害をつくる原因となる。

ガス中毒、酸素不足、放射線薬物、特定の感染症、風疹(ふうしん)、梅毒、トキソプラズマ症、妊娠中毒症など、胎児に悪い影響を与える因子はいろいろあるが、とくに、妊娠初期にかかる風疹、いわゆる三日はしかは、たとえ症状が軽く済んでも、胎児への影響は重大である。

流産、白そこひ、聴覚障害、心臓、歯の奇形、脳炎などをおこし、重い心身障害児が生まれる率は、数十%だという。

アメリカの統治下にあった沖縄では、昭和三十九年から四十年にかけて風疹が大流行し、千三百三十人の患者が発生し、奇形児も数百人生まれたと報告されている。これにより、風疹による奇形が、わが国でも注目され、以後、専門家による風疹ワクチンの開発、研究が盛んになつてきた。

医学、薬学の権威ある科学者たちによつて、専門的な研究や実験を積み重ねて、ここにひとつの風疹ワクチンが開発されたということは、母性の予備軍となる若い人びとに、新しい福音がもたらされたといえる。だが、この福音も、陽の目を見なければ、人びとは、その恩恵に浴することができない。

現状では、この風疹ワクチンが生ワクチンで、生きたウイルスを弱毒化している点で、接種を受けた人の機能を通して、妊婦に感染しては、という危惧か

ら、厚生省では認可の決断が下らないことである。また予防接種による事故の発生が、大きな社会問題となっているなど、いろいろ困難な問題もある。

だが、いったん風疹が流行すれば、沖縄の二の舞いになることは明らかである。風疹が流行すればよい、というが、それも、結婚前に、その因果関係の知識を持っていて、妊娠したという自覚のある場合に限る。

なんの知識もなく結婚し、妊娠したこともわからず、三日はしかぐらいと、売薬をのんで治せばどうなるだろう。考えるところしい。

風疹ワクチンの安全性が確認され、予防接種が実現したならば、無自覚の妊娠初期に風疹にかかっても、胎児は風疹ウイルスに侵されず、正常に脳が発達成長し、障害から胎児を守ることもができる。

ひとつの尊い生命の誕生のために、幸せな若い夫婦に、健康な赤ちゃんの誕生が、さらに幸せを加えるように、風疹ワクチンの安全性を確認し、一日も早くワクチンが認可されることを心から希望する。(社大阪府衛生婦人奉仕会事業部長)